

## 議事概要

会議名	第3回 森町総合計画審議会
日時	令和8年3月27日(金) 15:00~16:30
場所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、審議会委員17名(欠席委員3名)、事務局
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 町長あいさつ</li> <li>3 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 森町総合計画審議会について</li> <li>(2) 第10次森町総合計画策定について</li> <li>(3) 策定スケジュールについて</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第10次森町総合計画基本構想(案)について</p> <p>(2) 第10次森町総合計画「基本構想」答申(案)について</p> <p>(3) 令和8年度策定スケジュール(案)について</p> <p>・議事(1)~(2)について事務局より説明</p> <p>(質疑)</p> <p>会 長： 前回の審議会での意見や町民アンケート等を踏まえてまとめていただいた。資料1の基本構想16ページから19ページまでの内容について、違和感や質問があればお願いする。</p> <p>18ページの「行政運営のd X」における「ムリ・ムダ・ムラを無くして、ずっと頼れる行政を作ろう」という表現は古い印象を受ける。20年くらい前の行政の情報化やそれ以前の考え方に近い。d Xはマイナスをなくすというより、積極的なプラス効果を狙ったものであり、「ムリ・ムダ・ムラ」に特別な意味があるのか説明をお願いする。</p> <p>事務局： 以前の行財政改革でも使われてきた表現だが、現在は技術発展によりできることが広がる一方で、古い価値観やアナログな手法が残ることで、新たな次元でのムリ・ムダ・ムラが生じているという議論があった。</p> <p>デジタル化が進んでいるが、一部アナログのまま、表面的にはデジタルで対応しているが、人手で補っている部分もある。結局、デジタル化の恩恵を受けている部分と、そうでない部分のムラが生じているといった、新たな次元でのムリ・ムダ・ムラが出てきているのではないかという議論があった。</p> <p>人口減少が進み、職員の確保や予算が厳しくなっていく中で、職員数を減らすことや、単に予算のムダを効率化するより、限られた人員と予算の中で、今いる職員が最大限輝けるような形を目指す考えからこの表現となった。ただ、消極的な印象を与えた点は参考とし、改めて表現を検討する。</p> <p>会 長： タイトル下の説明を読めば理解できるが、最初に「ムリ・ムダ・ムラ」が出ると消極的なイメージに取られかねない。職員が活躍しバージョンアップしていくという前向きな表現にした方が、良い意識づくりにつながると思う。</p> <p>委 員： 所感と質問と意見を併せて、発言させていただく。</p> <p>私は他の西部地域の各市町の総合計画審議会に参加しており、そこでの議論を踏まえると、ウェルビーイングの向上と共創を基本方針に置くのは非常に良い。</p>

9ページの町民アンケート結果の平均幸福度は7.03だが、12ページのウェルビーイングアンケート結果は6.76となっており、ダブルスタンダードのように感じる。12ページには注釈があるが、9ページにも注釈を入れると見やすい。

15ページの森町の強み「自転車を活用した取組を推進」と、課題「自転車のまちの推進」の表現が重複して見えるため、差を持たせて、より一層進めるというような表現に変えた方がよい。

16ページ(1)の①は「基本とします」などの表現が重複しているため、「実感できる幸福度の高いまちづくりを進めます」「暮らしやすさを向上させる取組を着実に推進します」等と整理すると流れが良い。また、③の後段も「まちづくり」という表現が重複しているため、「事業者等との連携によるまちの活性化」等にまとめると文意が明確になると感じる。

会 長： よく読んでいただき感謝する。他にいかがか。

委 員： 資料1の参考資料(A4)の右下にSDGsアイコン表記があるが、10年先を見越した時に使われているものなのか。

会 長： その点は、他の自治体でも悩んでいるところ。SDGsは2030年までの目標であり、日本ではウェルビーイングが出てきた経緯もあるが、SDGsの考え方が古くなるわけではなく、さらに先も取り組むべきテーマとして他の自治体でも継承されている。ローカルSDGsと言い換える自治体もあるが、今回の表記があつておかしいということにはならない。

事務局： 補足すると、基本構想は10年間だが、前期基本計画は2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間であり、期間としては問題ないと整理している。しかし、後期基本計画の検討時には改めてSDGsの扱いを検討する必要があると考えている。

副会長： 10年後の推計では中学校270人前後、小学校300人前後とされており、青写真が狂う懸念がある。日本全国、今の学校は、子どもの数より大規模に対応している。増えてもいいように大きく作っているが、今の流れでは、むしろ小さくても良い学校にならなくてはならない。また、特別支援や配慮を要する子どもなど、今までにない教室の使い方も求められている。  
学校統廃合の早期検討など、学びの基盤整備について計画の中でどう触れていくかお聞きしたい。

事務局： 現在、森町の教育大綱の見直し時期にきている。教育委員会等と連携し、町の最上位計画である総合計画の前期基本計画に、教育の課題を落とし込んでいく。前期基本計画は5年間だが、時代とともに現場と合わなくなった場合は都度修正を踏まえて進めていきたい。

会 長： 非常に重要な指摘だと思う。基本計画の中で基本の柱2をどう考えていくか。第9次計画でも小中一貫や施設見直しに触れているが、単に規模を小さくするだけでなく、施設と内容が合わない事態を防ぐため、教育大綱の検討と並行して計画にも反映してほしい。

委 員： 基本の柱2について、「未来を拓く人を育むまち」という表現は、令和の時代を反映した分かりやすい言葉だと思うが、私は、少しスマートすぎて乾いた印象を受ける。未来を拓く人を育てていくことも大切だが、少し心の部分がなおざりにされている印象を受けた。

例えば、「豊かな人間性と未来を拓く人を育むまち」など、未来を拓いていく挑戦的な部分や教育の根底にある心の部分も表現に盛り込んだ方が、今後の施策においてなおざりにならないと思う。

会 長： 人づくりの面で心の部分は大事であり、検討をお願いします。

事務局： 基本の柱2は教育委員会とすり合わせて設定したが、委員の指摘も踏まえ、再度教育委員会と検討したい。

会 長： 議事（2）について、いただいた意見を踏まえて修正を検討し、最終的には私にご一任いただくということでお願いします。  
答申案について、私から説明させていただく。今回のポイントは、将来像「つながりと愛着を持ち共に創る森町」として、ウェルビーイングの考え方を取り入れ、町民一人ひとりが幸せを実感できる、活力のあるまちづくりを進めていく。  
方法論として、d Xや共創で、町と一体となって、町民や関係者と共に創ることがポイントだと思う。  
何か意見等があればお願いします。なければこのような形で答申させていただく。

・議事(3)について事務局より説明

(質疑)

会 長： 令和8年度は審議会を3回程度予定している。今後の取組について、「この点は検討が必要だ」、「ここが重要だ」という問題意識等があればお願いします。

委 員： 森町を語る会について、参加者は質問したいことを持って参加するが、時間がなくて言えない参加者もいる。せっきくの機会であり、意見が言える時間を取ってほしい。以前、町議会議員と話をする機会があったが、議員の議論に時間を要して、意見が言えなかったという不満があった。今後、機会があれば、意見や質問を受ける時間を取っていただきたい。

会 長： 森町を語る会や町政懇談会など、いただいた意見を踏まえてほしい。

事務局： 今年度の森町を語る会は、総合計画策定のために各地区で実施したが、森町を語る会は、年々いろいろなやり方をしているため、意見の集約方法は今後も検討する。総合計画策定については、スケジュールにある通りパブリックコメントの期間を設けているため、広く住民からの意見をいただく機会として活用してほしい。

会 長： 総合計画に限らず、いろいろな場面での町民が意見を言う時間ややり方全般の話と受け止める。  
総合計画策定で一番重要なのは、関係課が町民と情報交換や意見交換を行う中でニーズを把握して、総合計画に反映していくこと。議事録だけでは分からないため、関係課が町民との会話で、話題を広げて情報収集すると、日頃感じていることを把握できる。ただ、忙しくて時間が取れないのが問題の一因と思うが、反映をお願いします。

委 員： 今日の報告は非常に分かりやすくまとめてもらえた。今後の基本計画策定では、参考資料1の柱の下に、いろんな政策がぶら下がってくると思う。多くのデータが手元にある中で、今の立ち位置が分かっており、将来像としてあるべき姿も決定されている。問題は、今の立ち位置である現状と目指す姿のギャップをいかに埋めるかが重要である。整理された現状と課題が6つの柱にどうつながり解決していくかが見えれば、今後のK P I等の数値を追うことで目標達成につながっていくと理解している。

事務局： 森町の強みをさらに伸ばしていくパターンもあれば、課題解決のために、その差を埋めていくという部分もある。現状の課題を踏まえた上で、指標として設定していく形を予定している。

会 長： 現在の第9次総合計画に記載がないわけではないが、見出しが「現況・動向」であり、

今回は「現状と課題」になる。

意見のとおり、集めてきた情報を現状と課題で整理した上で、それについてどのような取組の方向性をとり、目指す姿に向かっていくか、その上で、さらに具体的な取組の整理がされるイメージを持っている。

委員： うまくいかなかったことを振り返り、アプローチの仕方を変えて次に盛り込む視点が非常に重要。第9次総合計画でも、全ての施策ができた訳ではなく、第9次総合計画の振り返りと第10次総合計画の関係性が、今ひとつ見えない。

事務局： 今回の資料には記載がなかったが、第2回審議会でも第9次総合計画進捗状況やアンケート調査による住民の方からの評価、町が取り組んできたことの評価を比較として示した。

今回は本体資料をスリム化・シンプルにするため割愛した。資料編には載せる予定であり、基本計画の策定においては、これまでの取組の成果や未達成の部分を「現状と課題」の中で捉え、計画に反映させていく。

会長： 次回は令和8年度の審議会となり、具体的な基本計画の柱ごとの取組や分野別の話になる。

引き続きよろしく願います。

4 その他

5 閉会

以上